



燕市立燕東小学校 学校だより

令和5年11月17日

No. 8

↓学校ホームページ

あすなる



子どもたちのものさし（価値観）

校長 鈴木 華奈子

10月21日の赤門祭。たくさんの皆様からお越しいただき、子どもたちの輝く姿と思いを込めた作品に、大きな拍手とお褒めの言葉をいただきました。誠にありがとうございました。

燕東小では、異学年グループ「あすなる班」で、遊び・掃除・行事・児童会の様々な取組を行っています。この中でも1年生・6年生等のペア学年は、一緒に活動することが多くあります。「明日はずっと、ステージの君のこと、見てるからねえ〜。」「あはは！やめてえ〜。」「応援してるよ。楽しもうねえ。」赤門祭前日、あすなる班ペア学年の6年生と1年生が笑いながら話していました。



赤門祭の後、あすなる班ペア学年で互いにメッセージを送り合いました。

「〇〇さんへ うたがじょうずすぎて かんどうしました。」

「〇〇さん ながれ星のえんそう、本当に星が降っているようにきれいだったよ。」

「〇〇さんへ ぜんりよくでたのしんでくれてありがとう。ぼくもがんばろうと思ったよ。」

「〇〇さんへ ぼうしの絵の花、1種類だけではなく何種類もかいていて、色鮮やかできれいだったね。いいね。」



互いを見つめ、それぞれの頑張る姿を発見し、喜び合う子どもたち。誰かと比べ優劣をつけるのではなく、その子自身の伸びようとしている姿を良さとして認めあうものさし（価値観）を子どもたちがもっていることを示しているように思います。

何事も初めは思うようにできません。そんな場面で「どうせ才能ないからできない。」ではなく「努力を重ねれば、少しずつでも自分なりに変わっていける。」と思える人は、困難な状況をしなやかに乗り越える力（レジリエンス）を高めることができるといわれています。このように思えるようになるためには、「できない」場面で、自分の努力する姿を見守られたり価値づけたりされることと、その努力した結果を自身で受け止められることが大切です。

あすなる班ペア学年でも見られた、互いの伸びようとする姿を見出し認め合うものさし（価値観）は子どもたちの未来を創る力を伸ばす意味でもとても重要だと思います。これを今後も豊かに広げていけるよう、これからも皆様とともに子どもたちが「伸びよう」「頑張ろう」と思える関わりを大切にしていきたいと思っています。

心をひとつに… 感動いっぱいの音楽会

音楽主任

今年の音楽会は、ここ数年の音楽会とは一味違いました。学年や全校で歌うことができ、全校児童が体育館に集ってお互いの音楽を鑑賞することができました。

どの学年も工夫を凝らし、見応え聴き応えのある発表になっていたと思います。子どもたちの真剣なまなざし、学年みんなで声を合わせる姿、気持ちを合わせて演奏する姿など素晴らしい発表を見ていただけたでしょうか。

音楽会後の教室では、「今までで一番最高の発表ができた！」と満足気な表情の子どもたちがたくさんいました。それは、音楽が苦手な子も得意な子もお互いに認め合い支え合って、それぞれの心と音とを一つにつなげられたからです。保護者の皆様、子どもたちへの大きな拍手と温かい励ましをありがとうございました。



あたたかな言葉があふれた絵画展



図工主任

赤門祭・絵画展に向け、子どもたちはみんな一生懸命に作品づくりに取り組みました。それぞれの学年ごとの題材やテーマに沿って、色合いや構図を工夫し、心を込めて丁寧に仕上げました。1つとして同じ作品はなく、一人一人の思いが表現された素敵な作品ばかりでした。

今年の絵の鑑賞は、なかよし班のペア学年で一緒に回りました。クロームブックを使って、ペアさんの作品や気に入った作品を写真に撮りました。下級生の絵を見て「絵を見ていると楽しい気持ちが伝わってくるなあ。」とか、上級生の絵を見て「こんなに細かく描けるなんてすごい！本物みたい！」「この場所知っている。あの教室だね。」などと口々につぶやき、良さを味わいながら鑑賞する姿がありました。

今年度も、多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

